

輝く新市域を振り返る

子育て・教育先進都市の実現



本市は平成16年11月の市町村合併以降も、特色ある地域づくりの推進と市民サービスの向上に努めています。それらを合併当初に掲げた「夢があり誇りのもてる20万都市づくりビジョン」の11の項目に沿ってシリーズで紹介いたします。今回のテーマは「子育て・教育先進都市の実現」です。

問い合わせ先 市役所 第二庁舎学校教育課 TEL 0857-20-3366
 駅南庁舎児童家庭課 TEL 0857-20-3461

芝生化した園庭（さつき保育園）

夢

があり誇りのもてる

20万都市づくりビジョン

- ・ 広域交流観光の展開
- ・ 防災・防犯対策の強化
- ・ 新たな農林水産業の振興
- ・ 地域文化の振興
- ・ 人権尊重都市の実現
- ・ 人材誘致・定住対策の促進
- 子育て・教育先進都市の実現
- ・ 生涯健康都市の実現
- ・ 地域に根ざした商工業の振興
- ・ 情報先進都市の実現
- ・ 環境先進都市の実現

本市の学校数と児童・生徒数

本市の学校数は、小学校が平成10年の52校から現在44校まで減少し、中学校は昭和60年以降、18校で変動がありません。

また、小学校の児童数は、昭和58年度の17327人をピークに、平成21年度は10617人、中学校の生徒数は昭和62年度の8604人をピークに、平

成21年度は5269人に減少し、現在、1学級あたりの平均人数は、小学校で24人、中学校で26人となっています。

少子化、あるいは人口の流動化により、中心市街地や中山間地域の学校で減少し、宅地開発などによる郊外の学校で増加する傾向にあります。

特色ある学校づくりの推進



小中一貫校（湖南学園）



銭太鼓の練習（東郷小学校）



社会見学（用瀬小学校）



もちつき（逢坂小学校）



保育実習（福部中学校）



幼保一体化施設（河原あゆっこ園）



地域子育て支援センター（おひさま広場）



子育て支援施設（スペースComodo）

平成20年度に鳥取市教育ビジョン「ふるさとを思い志をもつ子」を策定し、

学力の向上と豊かな人間性の育成に努めるとともに、特色ある学校づくりを推進しています。

市内全小中学校で取り組んでいる「自立と創造の学校づくり推進事業」もその一つです。

貝がら節踊りや因幡の傘踊りといった伝統文化の継承や、びわ、らつきょうなどの地域の特産物の栽培活動、地域や学校の実態に即した特色ある自然や文化、歴史、そこに暮らす人々など、地域に根ざした教育資源を生かした教育活動を展開しています。

新市域の豊かな教育資源の活用

中山間地域の生活体験活動をとおして、ふるさとの自然・文化のすばらしさや人の温かさを実感しながら、豊かな人間性や社会性を育む取り組みとして「中山間地域ふるさと体験活動」を推進しています。

本年度は、鳥取地域の2校の小学5年生が、夏休みに佐治町の農家に民泊し、杉の枝打ちや和紙づくりといった、日常生活ではなかなか味わうことのできない体験活動を行いました。

来年度も、鳥取地域の5校の小学生が実施する予定で、今後も新市域の豊かな教育資源を活用した教育実践を支援していきます。

保育と教育の連携

本市の保育園は、平成16年11月の合併により、鳥取地域29園（うち私立11園）に新市域の17園が加わり、新たな枠組みでスタートしました。

旧市町村の異なった保育料は、合併後に見直しを行い、国基準に比べ3歳未満児は8割、4歳以上児は7割の水準を統一基準とし、経過措置などを設けるなどし、保護者の経済的負担を軽減しました。

また、合併により、市域が広がったことで、保護者の勤務地に近い保育園にも

預けられるようになり、さらに、時間延長保育、病後児保育など、旧町村になかった保育サービスの拡充と向上に努めています。

体制の充実、児童虐待防止のためのネットワークづくりなど、総合的に子育て家庭を支援していくための取り組みを推進しています。

子育て家庭の支援

施設の整備では、浜村保育園やひかり保育園を改築、整備したほか、保育園と幼稚園の一体化施設、鹿野幼児センターこじか園や河原あゆっこ園を開設し、県内に先駆け、就学前児童の保育と教育の連携と推進に力を入れています。

平成17年3月に「鳥取市次世代育成行動計画（前期）」を策定し、妊婦健診助成や小児特別医療助成の拡大、新生児訪問活動や育児相談

今後、次代を担う市域のすべての子どもたちの、健やかな育成と子育て家庭にやさしい環境づくりのため、新たな取り組みを積極的に推進していきます。